

2024年1月9日

# アジア研究図書館

## アジア研究図書館活動報告

U-PARLシンポジウム「おすび、ひらくアジア5:人文学における研究データの共有・公開に向けて」開催報告(須永 恵美子)

U-PARLアジアンライブラリーカフェ No.7:「パンダはかわいい!」は常に真実なのか?  
~文献で見る「パンダ観」の歴史(荒木 達雄)

2023年度図書館総合展 出展報告(板橋 暁子)

「識字教育資料からアジアの社会をみる - ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」

令和5年度東京大学アジア研究図書館展示および記念セミナー開催報告(河原 弥生)

## ラオス語・ビルマ語を扱う書店・出版社紹介

13

(澁谷 由紀・千葉 綾乃・チンガイリャン)

## アジア研究図書館利用案内

次号の予定

編集後記

編集・発行:東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門  
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

## アジア研究図書館活動報告

U-PARL シンポジウム「むすび、ひらくアジア 5: 人文学における研究データの共有・公開に向けて」開催報告

須永 恵美子

附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団  
寄付研究部門 (U-PARL)



U-PARL は 2023 年 11 月 26 日 (日)、シンポジウム「むすび、ひらくアジア 5: 人文学における研究データの共有・公開に向けて」をハイブリッド形式にて開

催した。

シンポジウムは、  
養輪 顕量 U-PARL 部門長 (東京大学大学院人文社会系研究科教授) による趣旨説明に続いて、佐川 英治 アジア研究図書館館長 (東京大学大学院人文社会系研究科教授) による開会の辞ではじまった。司会は上原



究一 U-PARL 副部門長 (東京大学東洋文化研究所准教授) が担当し、学内外の 6 名の登壇者による講演が行われた。



第一部「知識資源のデジタル化と公開の

事例」では、徳原 靖浩 U-PARL 副部門長が「図書資料のデジタル化: アジア研究図書館デジタルコレクション」と題し



て、U-PARL が進めてきた漢籍や碑帖拓本などの貴重な資料のデジタル化とその活用事例を紹介した。続いて、柳澤 雅之氏 (京都大学東南アジア地域研究研究所准教授) より、「フィールドノートのデジタ



ル化と多目的・長期的利用」について、臨地調査中に記録した情報の保存と利活用について講演があった。次に、渡邊 英徳氏

(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授) から「戦災・災害のデジタルアーカイブ」のタイトルで広島やウクライナ戦争の多元



的デジタルアーカイブズが紹介された。

第二部「分野横断的な研究データの共有・公開に関する取り組み」では、はじめに池内有為氏（文教大学文学部准教授、文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官）より、「分野や国境を超えた人



文学データの共有」と題して人文学における研究データの共有・公開について、基盤整備や図書館のかかわり方について講演があった。南山泰之氏（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教）からは

「NII RDC におけるデータキュレーション機能の開発」の題で、研究データ



の再現性と再利用性を支えるためのプラットフォームについて、現在の取り組みのご紹介があった。大向一輝氏（東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター准教授）からは、デジタル人文学の観点から「研究データエコシステムとデジタルアーカイブ」について、現時点の成果や今後の課題について報告がなされた。



第三部では大向氏を司会に迎え、研究データ公開の意義やその影響など、幅広いテ

ーマでパネルディスカッションを行った。



フロアやオンラインからの質疑応答のあと、坂井修一東京大学附属図書館館長（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）による閉会の辞で閉幕した。



終了後アンケートでは、ディスカッションで討議された研究データの公開について、「現在必要とする方々が極少数だったとしても、十年後の研究者や市民が必要とする場面も出てくるように思います」など、研究データを永く保管し共有・公開する、持続可能性のある仕組みの必要性について、意見が寄せられていた。

当日は、会場に 19 名の方にお越しいただき、リアルタイム配信した YouTube ライブで 140 名以上の方にご視聴いただいた。「オンライン配信の映像が見やすかった」「パネルディスカッションの時間が充分に取られていてとてもよかった」というご意見もいただけた。

U-PARL の活動は来年度より第 3 期に入り、情報学、人文学、図書館との連携をより一層強めていきたいと考えている。

## U-PARL アジアンライブラリーカフェ No.7:「パンダはかわいい！」は常に真実な のか?～文献で見る「パンダ観」の歴史

荒木 達雄 (U-PARL)

U-PARL は昨年 10 月 24 日 15 時より「アジアンライブラリーカフェ」を開催した。

このイベントは「アジアと図書館を楽しむトークイベント」として 2017 年にはじまった。専門家、有識者をお招きし、さまざまな方々に気楽な雰囲気です学術的な話題に触れていただくという企画で、2020 年まで不定期に 6 回開催された。その後、新型コロナウイルス感染症の影響等で長らく開催されなかったが、このたび約 3 年半ぶりに開催の運びとなった。

第 7 回は「パンダ」をテーマとした。現在日本でアンケートをとれば過半数の人が「かわいい」と答えるであろうパンダ。パンダはなぜかわいいのか、そのかわいさはどこからくるものかについてはこれまでにさまざまな視点から議論が行われてきた。

今回のイベントではその成果をふまえて、「パンダの有する特徴」ではなく、「ヒトの側の都合」に焦点を当てた。

パンダが人をして「かわいい」と感ぜしめる要素を確かに有することはこれまでの諸研究が示している。しかし「パンダのかわいさ」を述べた古文献の存在をわれわれは寡聞にして知らない。これはどうしたことであろうか。考えられるのは、「パンダはかわいい」と感じられるだけの条件がヒトの側に整っていなかったのではないかということである。幸い図書館には大量の文献が保管されている。この山に分け入って過去の

人々がパンダに言及したものを探り当て、その時々にはパンダにどのような印象を持っていたのかを考察する。パンダをかわいいと思っていないのであれば、なぜかわいいと思えなかったのかを検討する。この検討は、なぜいまの人々はパンダをかわいいと思うことができるかを考えるヒントとなるだろう。

このテーマについて議論するべく、まず、「パンダ外交」の研究などで著名な業績を有する東京女子大学教授・家永真幸さんに「文献で見るパンダ観の歴史〈近代・現代篇〉」のご講演をいただき、つづいて荒木達雄が「文献で見るパンダ観の歴史〈古代篇〉」を発表し、千数百年間の中国における「パンダ観」を概観した。これをベースとして、大のパンダファンとしても知られる作家の藤岡みなみさんを司会に座談会を行った。



家永真幸さん

座談会では文献資料の読み方からヒトと自然とのかかわり、現代のインターネットメディアの威力に至るまで、主催者の思惑をも超えて多彩な意見が飛び交った。



藤岡みなみさん

本イベントは U-PARL としてははじめて会場の様子を YouTube にて同時配信し、閉会後には期間限定のアーカイブ配信も行った。初の試みゆえ多少のトラブルは免れ得なかったが、平日の午後では参加しにくいという方々にいささかなりとも便宜をご提供できたのではないかと思います。



座談会の様子

出席は会場、配信問わずすべて事前登録制とした。事前登録者は会場 23、配信 135。招待者を含めた当日会場参加者は 21、開催時間内の配信最大同時視聴者数は 63、延べ視聴者数は 72 で、閉会後 10 日間行ったアーカイブ配信の再生回数は 197 であった。

パンダというテーマだけに参加者には大学外のかたも多く見受けられた。一方、文献

学や政治学に興味をもつ図書館関係者、研究者もご参加くださった。年齢層も小学生から社会人までと幅広く、「パンダ」がいかにさまざまな人々を引きつけるテーマであるかを実感させる結果となった。

主催者としては、パンダに興味を持つかたに気軽にどしどしご参加いただきたいと願う一方、「図書館文献」という本来のテーマを離れて「パンダファンの集い」に終始してしまうのではないかと心配もするという矛盾した気持ちを抱いていた。しかし閉会後アンケートには、「中国古代におけるパンダ」「中国政治におけるパンダ」「ヒトの行動や心理」「パンダと自然保護」「現代社会とメディア」など多種多様な切り口からの意見が見られ、「図書館が滅多に使われない資料を保管しつづける大切さ」を強調する回答もあり、主催者としては望外の喜びを得た。

大学図書館は研究者、学生が日々の研究活動を滞りなく遂行するための欠かせない存在である。それと同時に、研究者はその成果を、求める人々にわかりやすく伝え、大学図書館に直接関わることのない人々をも含めた社会の共有財産に連絡させていく責務がある。アンケートにおいても同様のイベントをひきつづき開催してほしいとの要望が少なからず寄せられた。

イベント開催に際しては少なからぬミスや配慮の行き届かぬところがあり、各所にご迷惑をおかけした。貴重な教訓として心に刻みつつ、今後も大学、そして図書館の社会還元活動の一環としてこのようなイベントが頻繁に開催されることを願っている。

<https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/japanese/asianlibrarycafe7>

## 2023 年度図書館総合展 出展報告

板橋 暁子  
附属図書館アジア研究図書館  
研究開発部門 (RASARL)

### 1. はじめに

図書館総合展は 2023 年度に 25 回目を迎えた。公共・大学・学校・専門図書館を問わず、あらゆる館種の図書館の運営に関わる人々が一堂に会し、それぞれの機関の活動を広報し、情報を交換し、同業界人として交流を深める場と位置づけられている。

2020 年 10 月の当館開館および RASARL の発足以来、2021 年度 (第 23 回図書館総合展 ONLINE Plus) はアジア研究図書館全体として、2022 年度 (第 24 回図書館総合展 ONLINE Plus) は U-PARL 単体にて、いずれもポスターセッション形式でオンライン出展をおこなった。2023 年度もポスターセッション形式での参加という点は同様だが、今回は RASARL として初めて会場出展をおこなう機会となった (「東京大学アジア研究図書館」という名義での出展)。

### 2. 開催方式について

2023 年度図書館総合展は、会場・オンライン・サテライトという 3 つの形式で開催された。それぞれの会期は、会場開催が 10 月 24 日 (火)・25 日 (水) 10 時～18 時、オンライン開催が 10 月 26 日 (木)～11 月 15 日 (水) であった (サテライト会場は総合展会期中 (10 月 24 日～11 月 15 日) に出展者が任意で設定)。サテライト会場とは全国各地に設けられる小会場であり、総合展が推進する「(会場来場の前後日に)出展者の本

丸・本物・本人を訪問・見学しよう」キャンペーン」の一部として、出展者が各自の施設やオフィスを公開し、見学会・相談会などをおこなう場として機能するものとされる (当館は不参加)。

総合展本体の主たる会場はパシフィコ横浜アネックスホールであり、ポスターセッション出展者はアネックスホールのうち「アカデミック・ゾーン<海側フォワイエ>」と呼ばれる区画に配置された。アネックスホール本体には主に企業が出展し、海側フォワイエとホール本体の中間に位置する区画はフォーラム第 1 会場・第 2 会場として使用された。



主催者発表によれば、2023 年度の総入場者数は 8,362 名、当館含む会場ポスターセッション出展者は 40 件、会場ブース出展者は 84 件、1day 出展者は 9 件、会場フォーラムのイベント開催件数は 31 件であった。

会場での開催期間に先立ち、図書館総合展ウェブサイト上に参加形式ごと、出展者ごとの広報ページが設けられ、ポスターセッション出展者の場合は「2023 年度 ポスター」ページ

<https://www.libraryfair.jp/poster/2023>

にリンクを貼る形で各自の施設やイベントに関してアピールが可能になった。RASARL の広報ページは以下のとおり。

<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/169>

RASARL と同じく現地会場にて出展をおこなった澁谷由紀 U-PARL 特任研究員・宇戸優美子 U-PARL 特任専門職員によるポスターセッション「現代東南アジアにおける出版に関する諸問題：ベトナムとタイを中心に」の広報ページは以下のとおり。

<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/150>

また、組織としての U-PARL はオンラインのみにてポスターセッションへの出展をおこなった。

<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/147>



### 3. アジア研究図書館の出展内容

今回のポスターセッション出展者のうち会場参加者に対しては、幅 169cm×高さ 210cm のブースが提供され、そのうちポスターを掲示するパネルは幅 99cm×高さ

183cm であった。また、パネルの邪魔にならない範囲で出展者が使用できるようにパイプ椅子 1 脚が貸与された。

規定上、ポスターセッション出展者は、会場開催初日の前日である 10 月 23 日 (月) 15 時~18 時に搬入・設営作業をおこなうことが許可されていたが、当館は 24 日 (火) 午前 9 時~10 時の「出展者準備時間」にポスターを持ち込み設営作業を完了させた。なお最終日 (2 日目) 終了後の搬出・撤去作業として設定された時間帯は 25 日 (水) 18 時~21 時であった。

今回の当館ブースではパネルの幅を極力活用すべく A0 サイズ (幅約 84cm×高さ約 119cm) のポスターを掲示し、その下部のスペースにてアジア研究図書館パンフレットおよび 11 月に実施予定の月間展示「識字教育資料からアジアの社会をみる」広報チラシ、そして「令和 4 年度東京大学アジア研究図書館活動報告書」を配布した。配布物を置く小卓などは各ブースにないため、パネルに配布物を貼付するための文房具類はあらかじめ持参する必要がある。

ポスターは 3 つの段落から成り、1 つめの段落は、当館所蔵の「ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 寄贈識字教育資料」が利用可能になったことを広報するものである。当館は 2014 年に公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) より、アジア各国の言語で書かれた貴重な識字教育資料 3,487 点を受贈し、長年の整理作業を経て、2021-22 年度に『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』1~3 を刊行した。これにより学内者・学外者を問わず、「ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料」コレクションを

当館で閲覧することが可能になった。ただし ACCU 資料は東京大学 OPAC では検索できないため、閲覧希望者は事前に上記目録を参照し閲覧希望資料を確定した上で、東京大学附属図書館 HP 上の「総合図書館お問い合わせフォーム」内「お問い合わせ内容」欄に目録記載の「請求記号」を明記して申請をおこなうという方式を案内した。本段落には、東京大学学術機関リポジトリで公開されている電子ファイル版目録の URL 3 件および QR コード 3 件を掲載した。

2 つめの段落は、図書館総合展の約 1 週間後から東京大学総合図書館内で始まるアジア研究図書館主催の月間展示「識字教育資料からアジアの社会をみる ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」(11 月 1 日(水)~30 日(木))に関する案内である。同展示の詳細は本ニューズレターの開催報告に譲るとして、本ポスターは学内掲示ではなく多数の図書館総合展来場者の目に触れるという性格から、学外者にも気軽に来館いただけるような呼びかけを旨とした。

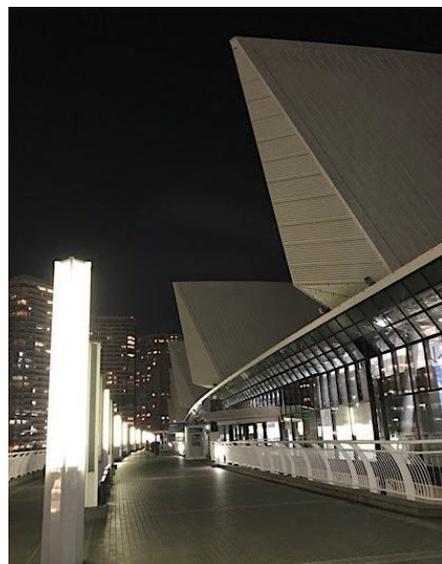
3 つめの段落は、同展示期間中の 11 月 9 日(木) 15:00-17:30 に開催するセミナーの広報である。プログラムを掲載し、対面・オンラインを併用する方式であること(対面の会場は東京大学総合図書館 4 階アジア研究図書館レクチャールーム)、事前予約制であることを明記して、QR コードからの事前申し込みを呼びかけた。

また、ACCU が作成に携わった識字教育資料は著作権不問であるため、本ポスターにおいては、とくに色鮮やかで希望に満ちた雰囲気伝える東南アジア諸語の資料 3 点(タイ:タイ語、ラオス:ラオ語、ベトナム:ベトナム語)の表紙を挿画として使用させていただいた。

ム:ベトナム語)の表紙を挿画として使用させていただいた。

#### 4. おわりに

報告者は会場参加のみでなく図書館総合展への参加自体が初めてであったが、いま振り返ると、最初の総合展体験が会場参加になったことは幸運であった。ポスターセッションの区画のみに限っても、展示物自体の内容が多様なのはもちろんのこと、出展者(組織・個人)の背景・属性はさまざまであり、図書館業界とはこれほどに多様なものであるのかと刮目した。報告者が参加したのは 1 日目のみであるが、会場に身を置くなかで、伝統的あるいは新鮮な角度から図書館機能の可能性を追求しようとする数多の試み、そして図書館という場を愛する人々の熱気に包まれ、大いに啓発されるものがあつた。



2024 年度は同じくパシフィコ横浜を会場として、11 月 5・6・7 日の 3 日間開催が予定されているとのことである。当館としても年ごとに創意工夫をこらし、参加を継続してゆければと願っている。

「識字教育資料からアジアの社会をみる  
ー ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」

令和 5 年度東京大学アジア研究図書館展示  
および記念セミナー開催報告

河原 弥生 (RASARL)

2023 年 11 月 1 日から 11 月 30 日までの一ヶ月間、本学の人文社会科学系組織連絡会議の連携イベント「ことばと社会」が開催されたのに合わせ、アジア研究図書館は「識字教育資料からアジアの社会をみる ー ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」と題する展示とセミナーを RASARL の企画・運営により開催した。

このコレクションは、2014 年に当館が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) より受贈したアジア・太平洋 25 カ国の 3,487 点の識字教育資料であり、長年の整理作業を経て、2021~2022 年度にそのカタログ『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』1~3 (アジア研究図書館叢書 1~3) が刊行され、今年度より閲覧利用に供することが可能になったものである。両イベントはこのコレクションの内容紹介を目的とした。

展示は、総合図書館 1 階の展示スペース、オープンエリア、4 階のアジア研究図書館フロアの一角の 3 つのスペースを使っておこなった。期間を前半と後半の 2 期に分け、第 1 期 (11 月 1 日~11 月 15 日) では「識字」のテーマのもと、本コレクションに含まれる資料の多様性に注目して形態や主題の異なる様々な資料を展示したのに対し、第 2 期 (11 月 17 日~11 月 30 日) では「女性」

をテーマとして、ACCU の識字教育事業において特に力が注がれ、コレクションのなかでもとりわけ資料数の多い女性・少女たちのための教材に焦点を当てた。

UTokyo Asian Research Library Exhibition 2023  
**Experiencing Societies in Asia through Literacy**  
 令和5年度東京大学アジア研究図書館展示  
**識字教育資料からアジアの社会をみる**  
 Education Materials: From the Collection Donated by the Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO  
 ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション

2023年11月1日(水) - 30日(木)  
 東京大学総合図書館1階/4階展示スペース

第1期 11月1日-15日 テーマ: 識字  
 第2期 11月17日-30日 テーマ: 女性  
 (会期中休憩日: 11月16日(木))  
 平日9:00-22:30 土日・祝日9:00-19:00  
 学内の方・学外の方いずれも、展示会観覧の事前予約は不要です(入場無料)。

記念セミナー開催 (参加無料)  
**11月9日(木) 15:00-17:30**  
 東京大学総合図書館4階  
 アジア研究図書館レクチャールーム  
 (対面・オンライン ハイブリッド開催)

記念セミナープログラム  
 ● 議長挨拶  
 アジア研究図書館長/人文社会科学系研究科教授 佐川英治  
 1. 「アジア研究資料としての識字教育資料コレクション: 変遷から展示まで」アジア研究図書館研究開発部門専任教員 河原弥生  
 2. 「ACCUによる識字協力事業: これまでの歩みと今後の展望」公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 教育協力部主任 若山洋子  
 3. 「目録から見るACCU識字教育資料の全体像と学術的価値について」人文社会科学系研究科教授 小林正人 参加申込はこちら▲  
 ● 質疑応答/ディスカッション (締切: 11月6日(月17時))

東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 (RASARL)  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/asia/research/>

令和5年度東京大学アジア研究図書館展示「識字教育資料からアジアの社会をみる」  
 ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション

東京大学アジア研究図書館所蔵の「ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料」3,487点は、2014年に公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) より寄贈されたコレクションです。  
 アジア太平洋地域における文化的・社会的変遷を促すための19年間に渡り設立されたACCUは、1980年代から識字教育 (読み書きを習ったことはあるが、読み書きに活用する機会が少ないうえに実生活で使えなくなる可能性のある人々) を対象に、90年代から女性を対象にした識字教育事業に関わるようになりました。その活動の中で、アジア太平洋地域の25カ国において収集された学校外教育 (ノンフォーマル・エデュケーション (Non-formal education)) の教材がこれらACCU資料です。ACCU資料は、東アジア・東南アジア・南アジア・中東・ヨーロッパ・西アジアにまたがる多くの国や地域 (国一単位に限らず) で使われているという点でも、また、作成された時期や各国の状況や問題意識を示すという点でも、貴重な価値を有しています。  
 コレクション名称の通り、ACCU資料の主題は識字教育に関わるものが多くを占めますが、文字学や教科書そのものだけではなく、文字を学ぶことと生活実用や職業技能を学ぶこととが、そして従来の識字教材が中心であったのに対し、そのうち実用性と理念を兼ね備えた読み物も少なからず収められています。資料の種類も、子どもの読みやすさや視覚的な多様な種類に及びます。多くの国において、成人してから文字を学ぶ主体として想定されているのは、農村の人々や少数民族、その中でも特に女性に及びます。また、ACCU資料の特色のひとつに、同じ内容を異なる言語、異なる地域で読み物にしたシリーズ化についても含まれている点があります。教科書や職業の習得、職業の転換など、資料が生活実用上に注目する点から、女性や文字を学ぶことで女性性や実用性などにどのような可能性がもたらされるかを伝えるものなど、内容は多岐に及びます。しかしシリーズ化は必ずしも同一の内容ではなく、テキストに各国の習慣が反映されているものもあり、また詳細にはアジア各地の個性が大きく現れています。  
 今回の展示では、第1期は「識字」、第2期は「女性」をテーマとして、多数にのぼるアジアの国々から関連資料をセレクトしました。識字の活用や社会的関係のイベントといった観点から、アジアの多様性を改めて認識していただければ幸いです。

東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 (Research Advancement Section for the Asian Research Library (RASARL))

展示およびセミナーのちらし (表・裏)

両期間とも、展示スペースでは展示ケース 4 台に冊子体資料や教育ゲームなどを展示

するとともに壁にポスター資料(複写画像)を吊し、オープンエリアでは可動式パネルにポスター画像(複写画像)を掲示し、4階のアジア研究図書館フロアでは展示ケース1台に冊子体資料を展示した。

第1期には、冊子体資料27点、ポスター12点、教育ゲーム1点、おもちゃ1点、AV資料1点の計42点を展示した。



第1期 オープンエリア



第1期 展示室全景



第1期 アジア研究図書館フロア



第1期 展示室展示ケース

第2期には、冊子体資料33点、ポスター8点の計41点を展示した。全期間を通じた展示資料の合計は83点であった。



第2期 オープンエリア



第 2 期 展示室展示ケース

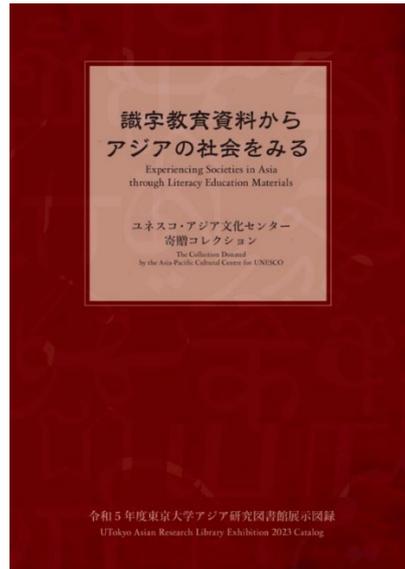


第 2 期 展示室壁のパネル



第 2 期 アジア研究図書館フロア

本展示会展示資料については、図録『識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション：令和 5 年度東京大学アジア研究図書館展示図録』を作成し、展示会場で示し切れなかった原語での書誌情報や、各国別のリストなどを収録した。



展示資料図録

[https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac\\_details/?lang=0&opkey=B170412397744564&srvc=0&amode=11&bibid=2003677674](https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac_details/?lang=0&opkey=B170412397744564&srvc=0&amode=11&bibid=2003677674)

会期中の 11 月 9 日には、本識字教育資料コレクションの紹介と利用促進のためのセミナーをハイブリッド形式で開催した。イベント会場としてアジア研究図書館 4 階のレクチャールームを初めて使用し、オンラインは Zoom ミーティングを利用しておこなった。セミナーは、佐川英治アジア研究図書館長（東京大学大学院人文社会系研究科教授）による開会の挨拶で始まり、河崎豊（附属図書館アジア研究図書館研究開発部門助教）の司会のもと、3 名の報告者による講演がおこなわれた。

まず、河原弥生(附属図書館アジア研究図書館研究開発部門准教授)が「アジア研究資料としての識字教育コレクション：受贈から展示まで」の題で、コレクションの受贈と整理、目録刊行の経緯を報告し、今回の展示資料の一部を紹介した。



報告者 1 河原弥生

続いて若山洋子氏(ユネスコ・アジア文化センター教育協力部主任)からは「ACCU による識字協力事業：これまでの歩みと今後の展望」と題して、ACCU 設立以来の図書開発事業から識字教育事業、近年の妊婦や子育て中の女性を対象とした SMILE ASIA プロジェクトに至るまでの長年の取り組み、カンボジアにおけるその実践例や、本コレクションの収集過程についてご講演いただいた。氏によると、本コレクションは、識字教育教材共同制作事業等の実施成果として保存されたり、出版賞への応募作品として受理されたり、国際会議開催時に参加者に呼びかけて寄贈を募ったり、職員が各国への出張時に入手したり、多様な経路で収集した資料によって長い年月をかけて形成されたものであり、出版された各国でも、他の国際機関でも整理されて収集されている可能性は低く、これほどの量がまとまって保存されているのは稀有な事例であるという。



報告者 2 若山洋子氏



報告者 3 小林正人氏

最後に小林正人氏(東京大学大学院人文社会系研究科教授)からは「目録から見る ACCU 識字教育資料の全体像と学術的価値について」のタイトルで、目録から本コレクションの形態等の分析を通じてアジア地域の識字教育の歴史における本コレクションの意義を分析するとともに、インドの少数民族地域における識字教育の具体例をご自身の経験からご紹介いただいた。その上で、本コレクションは、言語学、農村研究、各国の制度や社会問題の比較など多分野の研究に資する豊かな資料群であり、いくつもの博士論文が生み出されうる情報の宝庫であろうとの指摘があった。また、目録の検索性の課題について、関連資料の相互リンクや、

目録の元ファイルから csv や json に変換した utf-8 のデータが公開されれば理想的であるとの具体的な助言をいただいた。

当日は会場に 8 名、オンラインで 17 名の方に参加いただいております、その後の質疑応答/ディスカッションでは、資料そのものについてのみならず、アジア諸地域における各種協力事業における近年の日本のプレゼンスについてや、このコレクションをさらに発展させるための資料収集方法についてなど、広範な質問が寄せられ、新公開コレクションへの関心の高さが窺えた。



セミナー 質疑応答の様子

展示期間中に入館した学外者数は 118 名であり、とりわけ本郷キャンパスの銀杏の紅葉シーズンに重なった第 2 期の「女性」の展示への入館者が多かった。なお、展示開始直前の 10 月末に図書館総合展に参加して、本コレクションについて紹介したところ、それを機にセミナーと展示会への来場者もあり、よい広報となった。

期間中におこなった来場者アンケートでは、「展示資料を通じて、アジアにおける女性の地位、女性たちへの支援のあり方に触れられた」、「識字教育の大切さがわかった」、「重要な活動だと思う」、「ACCU 資料の保

存は大変だと思う」など、資料としての貴重さや重要性のみならず、ACCU の識字教育事業自体に敬意を示す感想が多く寄せられたことから、来場者の方々には本コレクションの価値の高さを多少なりとも伝えることができたのではないかと思います。一方で、表紙を展示した資料に関して「資料を開いた中身も見なかった」、内容について「訳文があるとよりよく理解できた」、「それぞれの言語での読み方(発音)があるとよかった」などの意見も見られた。実際に、特に印象に残った資料として、『なぜ女性が読み書きできる必要があるのでしょうか』(第 2 期) という 14 カ国版のある資料の実物の表紙とともに、一部の国の資料から抜粋した中身のページの画像と日本語での詳しい解説をパネルで掲示したセット展示を挙げた回答者が多く、外国語資料の内容やおもしろさを、いかに適切に伝えるが重要な課題であることを痛感した。

同時に、今後展示を希望する資料として、「今回とは異なるテーマで選んだ ACCU 資料」、「アジアの産物」「アジアと環境」などの意見が寄せられ、アジア資料全般に関する関心と期待の高さも窺えた。今後はこのような来場者の声も参考にしながら、魅力ある資料をよりわかりやすく紹介できるよう努めてゆきたい。

#### 参考

[板橋暁子、河原弥生、河崎豊編『識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション：令和 5 年度東京大学アジア研究図書館展示図録』東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023 年](#)

## ラオス語・ビルマ語資料を扱う書店・出版社紹介

澁谷由紀・千葉綾乃・チンガイリャン

<はじめに> 澁谷 由紀 (U-PARL)

東京大学アジア研究図書館ニューズレター第 13 号「アジア研究図書館の蔵書について」で報告された通り、アジア研究図書館のコレクション構築において、ラオスの公用語であるラオス語（ラオ語）資料とミャンマーの公用語であるビルマ語（ミャンマー語）資料の収集が課題となっている。

このような状況を受け、2022 年度から 2023 年度にかけて、近年に刊行されたラオス語資料とビルマ語資料の選書と購入を進めた。ラオス語資料の選書にあたっては、千葉綾乃氏（東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程）に、ビルマ語資料の選書にあたってはチンガイリャン氏（東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程）（所属は 2023 年 3 月時点）にご協力いただいた。

本稿は選書の過程で 2023 年 3 月に千葉氏とリャン氏から提供いただいた、ラオス語資料、ビルマ語資料を扱う書店・出版社に関する情報を、若干の編集を加えたうえで収録したものである。ラオス語資料についてはラオス国内の書店・出版社を紹介している。ビルマ語資料についてはミャンマー国内に店舗を構える書店だけではなく、国外のオンライン書店も含まれている。掲載を許可いただいた千葉氏とリャン氏に御礼申し上げたい。

<ラオス語> 千葉 綾乃

(1) ドークケートブックショップ (Dokked Bookshop) / ハーンカーイプム ドークケート (ຮ້ານຂາຍປຶ້ມ ດອກເກດ)

住所: Sibounheuang Rd., Vientiane, Laos

Tel: +856 30 46 60 096

<https://web.facebook.com/DokkedPublishing/>

一般書、専門書、教科書、辞書、漫画、雑誌、DVD など多彩な種類の出版物を扱う。主題については、言語、文学、哲学、伝記、文化、歴史、政治、音楽、食、健康、農業、自己啓発、コンピューター、ビジネスなど幅広い。言語別では、ラオス語、タイ語、フランス語、中国語、ベトナム語、英語、日本語などの資料を扱う。価格は 2 万キープ～20 万キープ程度のものが多いが、45 万～80 万キープの書籍も取り扱っている（注：2023 年 12 月現在、1 万キープは約 70 円）。Facebook のメッセージで注文が可能で、Facebook ページの投稿へのコメントには、書籍の価格やサイズ、配送可能か否かを尋ねる質問がみられる。

(2) ディーブック (D-BOOK) / ハーンカーイプム ディーブックまたはハーンカーイプムディーブックス (ຮ້ານປຶ້ມດີບຸກສ໌)

住所 : ບ້ານພະຂາວ, ເມືອງໄຊທານີ, ນະຄອນຫຼວງວຽງຈັນ

(ຕໍ່ໜ້າໂຮງຮຽນປະຖົມພະຂາວ), Vientiane, Laos  
<https://web.facebook.com/dbookvientiane/>  
<https://business.google.com/website/dbookshop/>  
Tel: +856 30 98 94 291

専門書から一般書、絵本までカバーしている。文化、文学（小説・詩）、歴史、伝記、政治、音楽、食、科学、語学、法律、仏教など幅広い主題の本を扱う。記述言語がラオス語の本が多い。同社ウェブサイト上では新着順、価格順、名前順に販売図書をソートできるが、タイトル等での検索やジャンルごとの絞り込みはできない。

価格は2万~20万キープ/冊がボリュームゾーンだが、45万~80万キープ/冊の図書も販売している。

Facebook のメッセージで注文が可能である。2022年4月にFacebook のメッセージで書籍を注文しようと試み、国外にも配送できるか同社に尋ねたところ、DHLなどで対応可とのことだったが、注文内容についてのやり取りの途中で連絡が途絶えてしまった。同社ウェブサイトには“[How to order](#)”というページがあるが、そこには注文に関する情報は掲載されていない。

同社ウェブサイトからは、2023年3月8~12日、ラオス国立大学ドンドークキャンパス ホールにて開催されたブックフェア、ブンマホーランコンプムニャイ

(ບຸນພະໂຫລານກອງບ້ຳໃຫຍ່) に出店するなど、同社が活発な営業活動をしている様子がわかる。

(3) ミーディーブックス (Meedee Books)  
/ ミーディーブックス (ມິດີບຸກຄົນ)  
住所: No. 218, Unit 11, Dongpalane Road, Vientiane, Laos  
<https://meedeebooks.com>  
<https://web.facebook.com/meedeebookspublis>

## hing

物語、社会科学、自然科学、算数などをテーマにした本を販売している。出版社兼書店であり、同社ウェブサイトの商品一覧に掲載されているのは自社出版とみられる子ども向けの本や絵本が大部分を占める。

しかしながら同社 Facebook ページ等でみられる店内の写真から、子ども向け以外の本も取り扱っている様子がうかがえる。

言語はラオス語中心である。主な価格帯は2万~5万キープ程度である。50万キープの辞書も販売している。

同社ウェブサイトの商品一覧ページでは、価格・対象年齢・言語・ページ数・サイズで商品のソートが可能である。

注文はウェブサイト上から行うことができる。ただし日本への配送を選択すると“Sorry, we don't ship to your area.”と表示される。

(4) モニュメントブックスアンドトイズ (Monument Books and Toys) / ハーンカーイプム レクアンリン モーニウメン (ຮ້ານຂາຍປຶ້ມ ແລະ ເຄື່ອງຫຼິ້ນ ໃມນິວເມັນ)  
住所: Setthathirath Road, 01006, Vientiane, Laos

<https://web.facebook.com/MonumentToysLaos>

以前はタイ語、英語、フランス語、ラオス語の書籍を多く販売していたが、現在は玩具の販売をメインにしている。チャンパーサク県パークセー郡にも1店舗ある。

(5) その他  
ラオス国立大学 (National University of Laos) ドンドーク (Dongdok) キャンパス内のほぼ中央に、ラオス国立大学内売店通称「ブックショップ (Bookshop)」がある。店舗の屋根やレシートに“ADS”と記載され

ており、そちらが正式な店名の可能性もあるが、詳細は不明。

食料品、日用品、文具や雑貨等豊富な品揃えの中に書籍売り場がある。書籍は教科書、一般書、専門書、辞書など多岐に渡り、タイ語、ラオス語の本が多い。

<ビルマ語> チンガイリャン

#### (1) Pann Satt Lann Bookshop

住所: No.(454), Myintawthar Rd, Tharketa Tsp, Yangon, Myanmar  
[www.pannsattlann.com](http://www.pannsattlann.com)

主にビルマ語の本を扱うが、英語の本の取扱いもある。主題は政治、伝記、教育、健康などで、小説、エッセイと自己啓発の本を多く販売している。書籍の価格は現地価格と同等である。海外向け郵送サービスがあり、顧客のアカウントの「購入済みの書籍」ビューからリアルタイムで配送状況を確認できる。

#### (2) Yangon Book Plaza

住所: Lamadaw Street, Yangon, Myanmar  
Tel +95 9 767 019926  
<https://web.facebook.com/yangonbookplaza>

ミャンマー国内で本を購入できる書店である。海外への発送の可否はわからない。

#### (3) Yadanar May Book Store

<https://m.facebook.com/YadanarMayBookStore>

ミャンマーには SNS 上のブックショップが多くあるが、その中で海外への配送サービスを提供している書店である。語学、小説、エッセイ、自己啓発の本、辞書などの情報が投稿されている。

#### (4) Myanmar Bookshop

住所: 111 North Bridge Road, #04-06, Peninsula Plaza, Singapore, 179098  
<https://myanmarbookshop.com>

ミャンマー国外在住者向けのビルマ語と英語の図書が購入できるオンライン書店である。経済、政治、歴史、文化、教育、語学、美術、科学、法律、農業、工業、辞書、伝記、雑誌など 30 分野以上を扱う。CD、DVD も購入できる。PayPal 決済やクレジットカード決済が可能である。

#### (5) Wun Zinn eBook application

<https://www.wunzinn.com>  
<https://www.facebook.com/wunzinn>

スマートフォン等にアプリをダウンロードし、アカウントを作成することで ebook を読むことができる。クレジットカード決済が可能である。小説、エッセイと自己啓発の本が多い。

#### (6) Myanmar'Sense (Bookshop In Japan)

<https://web.facebook.com/myanmarsenseinjapan>

日本にある Facebook 上の個人のオンラインショップである。小説、エッセイと自己啓発の本を多く取り扱う。

# アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

場 所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日

## 開館時間

	曜日等	通常期	8月・3月
	月～金曜日	8:30～22:30	8:30～21:00
	土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

## 次号の予定

第15号は令和六年四月五日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館 ([asialib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asialib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

## 編集後記

第14号をお届けします。

本号では、昨年秋以降にアジア研究図書館に属する二研究部門が主体となった活動の報告を収めました。弊館のアウトリーチ活動の一端を知るよすがとなれば幸いです。また、ラオス語とビルマ語の資料入手に関する貴重な情報をご提供いただきました。図書館運営に携わる方々はもちろん、当該地域の研究を進める学生・教員の研究教育活動の一助となることを期待しています。(J)